

東京山桜会

第11回 校外教授

佐伯 文子(大中・高19期)

平成21年12月5日(土)、14名参加、小石川後楽園で、東京山桜会校外教授が行われました。お昼は、日中友誼会館内の中国料理『豫園(よいん)』で、おいしい料理をいただきながら談笑いろいろな年代層の会員達から豊富な知識を頂き、さらに荒川良雄大先輩から小石川後楽園についての講義を聞き、それから散策をしました。小石川後楽園は秋まっさかりで、真っ赤なもみじの紅葉と、大イチョウの黄色が映え都心とは思えない静かなゆったりしたオアシスで穴場です。皆様ほっとされ紅葉の景色を各々楽しまれています。すごく落ち着く感じでした。四季の花を観賞でき、中国や京都や木曾など諸国の名所が造られ一周すると諸国漫遊でき水戸黄門気分になり、たった300円で味わえるタイムスリップです。65歳以上は、150円です。黄門様も小石川後楽園の中でタイムスリップして楽しんでいたのでしょうか。便利なことを発想してくださいました。江戸時代初期寛永6年(1629年)水戸徳川家の祖、頼房が中屋敷(のちに上屋敷となる)として造ったもので二代藩主の光圀の代に完成了庭園で、池を中心とした回遊式築山泉水庭(つきやませんすい)であり、光圀の時に、明から来た儒学者、朱舜水(しゅそんすい)の意見を用い、円月橋、西湖堤、太湖石(石灰石)、蓬萊(仙人が東方に住むユートピアで中国の神仙思想)など中国の風物を取り入れ中国趣味豊かな庭園を造ったが、3代綱条(つなえだ)の時、桂昌院(1624~1705)が後楽園を観賞する時に、凸凹(でこぼこ)をバリアフリーにしてしまったり、戦災で焼失してしまったりして当時のものは、和風庭園のなかで名残があり楽しませてくれます。円月橋は、水面に映る形が満月のように見えることからつけられた名称で得仁堂とともに当時を留める貴重な建造物です。西湖堤は、湖にワリバシが一本かかっているような景色で中国の景勝地で、荒川大先輩が『中国に行くならここへぜひ行くと良い。』とお勧めでした。蓬萊は、長寿がほしいと中国の秦の始皇帝がねがった海中三神山を、石灰石の太湖石をのせ巨大な石になり、下から線香の煙りを入れると煙りが上にとおっていく島を造り、柳を植えたりアクセントになっています。(仙人の世界)そして渡月橋、清水觀音堂跡、白糸の滝、愛宕坂という急な石段、水辺に黒松、海から運んだ石で東海道の三保の松原、中央の池は、琵琶湖で、灯台の役目が灯籠、ごく小さな竹生島(ちくぶしま)も浮かんでいます。書院の庭だった内庭のあたりは中山道の木曽路で針葉樹と木曽路、そして紅葉林、亀の形をした蓬萊島。通天橋は、京都の東福寺をイメージされ、紅葉に朱塗りの橋は、格別に秋の醍醐味を目で味わわ

させてくれました。面積は、約7万m²で東京ドームの1.5倍で、東京ドームの屋根がちょっと見えます。園名も舜水の命名で、中国の范仲淹(はんちゅうえん:中国北宋の政治家『進志』日本の知事以上の役職)の『岳陽桜記(がくようろうき)』の『民衆に先立って天下のことを憂い民衆がみな安樂な日を送るようになって後に楽しむ』と言う『先憂後楽』の後によったもので、光圀の政治的信条のよったものと言われています。文化財保護法により特別史跡・特別名勝に昭和27年3月に指定されています。二重指定を受けているのは、小石川後楽園、浜離宮恩賜庭園、金閣寺などごく限られています。私達一行は、黄門様気分になって紅葉や常緑樹で森林浴をレストラン『梅里』でコーヒーをのみ休憩し、家路へとたどりました。黄門様の『ワハハハハツ!!』の笑いとともに。

余談ですが、大先輩から本百姓(百姓だけで生活する人)であるには、昔は三千坪のお米を耕す田んぼがなければ自給自足の生活ができないので3千坪は必ず必要であったそうです。一坪=畠2畠3.3m²(3.3058)これは米だけの面積です。3千坪=一町(いっちょう)、3百坪=一反(いったん)、30坪=一畝(ひとせ)です。

初めて参加された馬淵大先輩が、『今、司馬遼太郎の“坂の上の雲”がテレビで話題になっているが日露友好条約の時に、記念として日本になつめの木を2本もってきた1本が追手門学院にあると聞いていたのですがどこにあるのですか?今もあるのですか?』萩原大先輩と甲谷大先輩、『ハイ確かに小学部の(プールの近く)所に今も元気に育っています。そしてもう一本も元気に育っています。現在上智大学の中にある礼拝堂の近くのもと、追手門学院(偕行社)の創始者、高島鞆之助中将(時の鎮台司令官)が住まっていた邸宅の所にあると聞いております。』とのことでした。皆様もそれを聞いて『是非、高島先生の元邸宅となつめの木を見学に行きたい。』とのことでした。

